

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

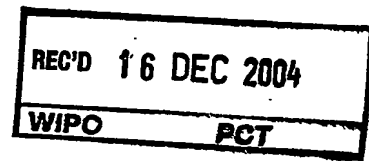
25.10.2004

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 4 年 4 月 3 0 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 4 - 1 3 5 9 1 0
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 4 - 1 3 5 9 1 0]



出 願 人 コンビ株式会社
Applicant(s):

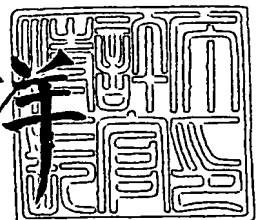
PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

BEST AVAILABLE COPY

2 0 0 4 年 1 2 月 3 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川 洋



【書類名】 特許願
【整理番号】 040373JP
【提出日】 平成16年 4月30日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 A47D 13/02
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都台東区元浅草 2 - 6 - 7 コンビ株式会社内
 【氏名】 吉江 俊郎
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都台東区元浅草 2 - 6 - 7 コンビ株式会社内
 【氏名】 浮津 裕
【特許出願人】
 【識別番号】 391003912
 【氏名又は名称】 コンビ株式会社
【代理人】
 【識別番号】 100099645
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 山本 晃司
 【電話番号】 03-5524-2323
 【連絡先】 担当
【選任した代理人】
 【識別番号】 100104499
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 岸本 達人
 【電話番号】 03-5524-2323
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 131913
 【納付金額】 16,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1

【書類名】 特許請求の範囲**【請求項 1】**

使用者が装着する子守帯本体と、幼児を横抱き姿勢で保持すべく前記子守帯本体から吊り下げられる横抱き用シートとを備えた子守帯において、

前記子守帯本体には、前記横抱き用シートを取り付けるための留め具として、前記横抱き用シートを吊り下げるための上部留め具と、それらの上部留め具よりも下方に位置する下部留め具とが設けられ、前記横抱き用シートには、当該横抱き用シートを前記上部留め具から吊り下げるための吊り下げ具と、前記横抱き用シートの幅方向一方の側縁に設けられて前記下部留め具と連結可能な揺れ止め用留め具とが設けられていることを特徴とする子守帯。

【請求項 2】

前記子守帯本体には使用者の肩回りに装着される一对の肩帯と、前記肩帯の下端に続いて使用者の腰回りにされる腰帯とが設けられ、前記上部留め具が前記一对の肩帯のそれぞれの途中に設けられ、前記下部留め具は前記肩帯の下端又は前記腰帯に設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の子守帯。

【請求項 3】

前記下部留め具及び前記揺れ止め用留め具のそれぞれは、前記子守帯本体及び前記横抱き用シートに対して留め具固定ベルトを介して取り付けられ、前記留め具固定ベルトは前記下部留め具及び前記揺れ止め用留め具のそれぞれと隣接した位置にて前記子守帯本体及び前記横抱き用シートに縫い付けられていることを特徴とする請求項 2 に記載の子守帯。

【請求項 4】

前記子守帯本体には、前記上部留め具が左右一对設けられ、前記横抱き用シートには、前記吊り下げ具として、当該横抱き用シートの頭部側を前記一对の上部留め具のうちいずれか一方の上部留め具から吊り下げるための頭部側吊り下げ具と、前記横抱き用シートの臀部側を他方の上部留め具から吊り下げるための臀部側吊り下げ具とが設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の子守帯。

【請求項 5】

前記横抱き用シートの前記臀部支持側には幼児の腹部を覆う腹部パッドが設けられ、該腹部パッドの上端には幼児の胸部を覆う胸部パッドが続けて設けられ、前記横抱き用シートには、前記頭部側吊り下げ具と前記胸部パッドとを連結する胸部ベルトが設けられていることを特徴とする請求項 4 に記載の子守帯。

【請求項 6】

前記上部留め具と前記下部留め具とは、大きさ又は連結に関わる構造のうち少なくともいずれか一方が互いに異なっていることを特徴とする請求項 1 に記載の子守帯。

【請求項 7】

前記横抱き用シートの前記臀部側には幼児の腹部を覆う腹部パッドが設けられ、該腹部パッドの上端には幼児の胸部を覆う胸部パッドが続けて設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の子守帯。

【請求項 8】

使用者が装着する子守帯本体と、幼児を保持すべく前記子守帯本体に連結されるアタッチメントとを備えた子守帯において、

前記子守帯本体には、前記アタッチメントを連結するための互いに用途が異なる複数種類の留め具が位置を変えて設けられ、前記複数種類の留め具のそれぞれは、大きさ又は連結に関わる構造のうち少なくともいずれか一方が互いに異なっていることを特徴とする子守帯。

【請求項 9】

使用者が装着する子守帯本体と、幼児を横抱き姿勢で保持すべく前記子守帯本体から吊り下げられる横抱き用シートとを備えた子守帯において、

前記横抱き用シートの前記臀部側には幼児の腹部を覆う腹部パッドが設けられ、該腹部パッドの上端には幼児の胸部を覆う胸部パッドが続けて設けられていることを特徴とする



子守帯。

【書類名】明細書

【発明の名称】子守帯

【技術分野】

【0001】

本発明は、子守帯本体に横抱き用シート等のアタッチメントを装着して幼児を所望の姿勢で保持する子守帯に関する。

【背景技術】

【0002】

使用者が装着する子守帯本体から横抱き用シートを吊り下げ、その横抱き用シートに幼児を収容して該幼児を横向きに寝かせた状態で支持できるようにした子守帯が知られている（特許文献1参照）。

【特許文献1】特開2002-282097号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

従来の子守帯は、横抱き用シートを上方で吊っているため、その吊り下げ支持点を中心として横抱き用シートが揺れ易く、使用者が横抱き用シートに手を添えてその揺れを抑える必要が生じることがある。また、縦抱き用シート等の他のアタッチメントを取り付ける必要から子守帯本体に複数の留め具が設けられる場合、それらに横抱き用シートを取り付ける際に適切な留め具を判別し難いことがある。さらに、従来の子守帯では横抱き用シートに寝かされた幼児の腹部をパッドで覆っているがその胸部は露出している。

【0004】

そこで、本発明は、子守帯本体から横抱き用シートを吊り下げる場合のその横抱き用シートの揺れを抑えることが可能な子守帯を提供することを目的とする。さらには、子守帯本体に複数の留め具が設けられる場合において適切な留め具を容易に判別できる子守帯、横抱き姿勢で保持された幼児の胸部も覆うことができる子守帯を提供することも目的とする。なお、本発明において、幼児の用語は新生児、乳児も含む概念で使用されるものである。

【課題を解決するための手段】

【0005】

本発明は、使用者が装着する子守帯本体（2）と、幼児を横抱き姿勢で保持すべく前記子守帯本体から吊り下げられる横抱き用シート（3）とを備えた子守帯（1）において、前記子守帯本体には、前記横抱き用シートを取り付けるための留め具として、前記横抱き用シートを吊り下げるための上部留め具（18b、19）と、それらの上部留め具よりも下方に位置する下部留め具（20b）とが設けられ、前記横抱き用シートには、当該横抱き用シートを前記上部留め具から吊り下げるための吊り下げ具（32、35、36、37）と、前記横抱き用シートの幅方向一方の側縁に設けられて前記下部留め具と連結可能な揺れ止め用留め具（20a）とが設けられることにより、上述した課題を解決する。

【0006】

この発明の子守帯によれば、子守帯本体の下部留め具と横抱き用シートの揺れ止め用留め具とを相互に連結することにより、上部留め具と吊り下げ具との連結位置よりも下方で横抱き用シートを子守帯本体に拘束することができる。これにより、横抱き用シートの吊り下げ支持点を中心とした揺れを抑え、使用者の負担を軽減することができる。

【0007】

本発明の子守帯においては、前記子守帯本体には使用者の肩回りに装着される一対の肩帯（11）と、前記肩帯の下端に続いて使用者の腰回りにされる腰帯（12）とが設けられ、前記上部留め具が前記一対の肩帯のそれぞれの途中に設けられ、前記下部留め具は前記肩帯の下端又は前記腰帯に設けられてもよい。この態様によれば、下部留め具を上部留め具に対して下方に最大限に離して揺れ止め用留め具による揺れ止め作用をより効果的に発揮させることができる。なお、肩帯の下端又は腰帯には、両者の境界も含まれる。

【0008】

さらに、前記下部留め具及び前記揺れ止め用留め具のそれぞれは、前記子守帯本体及び前記横抱き用シートに対して留め具固定ベルトを介して取り付けられ、前記留め具固定ベルトは前記下部留め具及び前記揺れ止め用留め具のそれぞれと隣接した位置にて前記子守帯本体及び前記横抱き用シートに縫い付けられてもよい。この態様によれば、下部留め具の子守帯本体からの浮き上がりや揺れ止め用留め具それ自身の横抱き用シートに対する振れを抑えて揺れ止め用留め具による揺れ止め作用をさらに効果的に発揮させることができる。

【0009】

本発明の子守帯において、前記子守帯本体には、前記上部留め具が左右一対設けられ、前記横抱き用シートには、前記吊り下げ具として、当該横抱き用シートの頭部側を前記一対の上部留め具のうちいずれか一方の上部留め具から吊り下げるための頭部側吊り下げ具(32)と、前記横抱き用シートの臀部側を他方の上部留め具から吊り下げるための臀部側吊り下げ具(35、36、37)とが設けられてもよい。この態様によれば、横抱き用シートの吊り下げ具に加わる荷重を使用者の両肩に分散させつつ下部留め具と揺れ止め用留め具によって横抱き用シートの揺れを抑えることができるので、使用者の負担がさらに軽減される。

【0010】

さらに、上記態様においては、前記横抱き用シートの前記臀部支持側には幼児の腹部を覆う腹部パッド(35)が設けられ、該腹部パッドの上端には幼児の胸部を覆う胸部パッド(50)が続けて設けられ、前記横抱き用シートには、前記頭部側吊り下げ具と前記胸部パッドとを連結する胸部ベルト(43)が設けられてもよい。この態様によれば、腹部パッド及び胸部パッドにて幼児の腹部から胸部にかけての範囲を覆ってその保護を図ることができる。胸部パッドを頭部側吊り下げ具と連結することにより、胸部の垂れ下がりや防止して胸部パッドの追加による幼児の不快感の増加を抑えることができる。

【0011】

本発明の子守帯において、前記上部留め具と前記下部留め具とは、大きさ又は連結に関わる構造のうち少なくともいずれか一方が互いに異なってもよい。このように留め具を区分すれば、横抱き用シートを子守帯本体に装着する際に不適当な留め具に吊り下げ具や揺れ止め用留め具を連結することが不可能となり、適切な留め具を容易かつ確実に判別できるようになる。

【0012】

本発明の子守帯において、前記横抱き用シートの前記臀部側には幼児の腹部を覆う腹部パッド(35)が設けられ、該腹部パッドの上端には幼児の胸部を覆う胸部パッド(50)が続けて設けられてもよい。これにより、幼児の腹部から胸部を覆ってその保護を図ることができる。

【0013】

本発明の他の子守帯は、使用者が装着する子守帯本体(2)と、幼児を保持すべく前記子守帯本体に連結されるアタッチメント(3;60)とを備えた子守帯(1)において、前記子守帯本体には、前記アタッチメントを連結するための互いに用途が異なる複数種類の留め具(18b、19、20b)が位置を変えて設けられ、前記複数種類の留め具のそれぞれは、大きさ又は連結に関わる構造のうち少なくともいずれか一方が互いに異なっていることにより、上述した課題を解決する。この発明の子守帯によれば、用途が異なる複数種類の留め具の大きさ又は連結に関わる構成が互いに異なるので、用途に応じた適切な留め具を容易に判別できるようになる。

【0014】

本発明のさらに他の子守帯は、使用者が装着する子守帯本体(2)と、幼児を横抱き姿勢で保持すべく前記子守帯本体から吊り下げられる横抱き用シート(3)とを備えた子守帯(1)において、前記横抱き用シートの前記臀部側には幼児の腹部を覆う腹部パッド(35)が設けられ、該腹部パッドの上端には幼児の胸部を覆う胸部パッド(50)が続け

て設けられることにより、上述した課題を解決する。この発明の子守帯によれば、腹部パッド及び胸部パッドにて幼児の腹部から胸部にかけての範囲を覆ってその保護を図ることができる。

【0015】

なお、以上の説明では本発明の理解を容易にするために添付図面の参照符号を括弧書きにて付記したが、それにより本発明が図示の形態に限定されるものではない。

【発明の効果】

【0016】

以上に説明したように、本発明の子守帯によれば、上部留め具と吊り下げ具との連結位置よりも下方で横抱き用シートを子守帯本体に拘束して横抱き用シートの吊り下げ支持点を中心とした揺れを抑え、それにより使用者の負担を軽減することができる。また、用途が互いに異なる複数種類の留め具のそれぞれについて、大きさ又は連結に関わる構造のうち少なくともいずれか一方が互いに異なるようにした子守帯によれば、用途に応じた適切な留め具を容易に判別できるようになる。さらに、横抱き用シートの臀部側には腹部パッドを設け、これに続いて胸部パッドを設けた子守帯によれば、幼児の腹部から胸部にかけての範囲を覆ってその保護を図ることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0017】

以下、本発明が適用された子守帯の好適な一形態について説明する。図1及び図2は本発明の一形態に係る子守帯を示している。子守帯1は使用者（一例として親）が装着する子守帯本体2と、その子守帯本体2に装着される横抱き用シート3とを備えている。以下、これらを順に説明する。なお、子守帯本体2には、横抱き用シート3に代えて、図14及び図15に示す縦抱き用シートを装着することもできるが、この点は後述する。

【0018】

〔子守帯本体について〕

図3は子守帯本体2を背面側から展開した様子を示し、図4は子守帯本体2の使用者への装着時の様子（但し、使用者は図示略）を示す。これらの図に示すように、子守帯本体2は、使用者の肩回りに装着される一对の肩帯11と、使用者の腰回りに装着される腰帯12とを備えている。腰帯12は使用者の腰部の背面側に当てられるパッド13と、そのパッド13の両側と長さ調整用のラダー14を介して連結される一对のサイドベルト15とを有している。肩帯11の先端（下端に相当）11aはサイドベルト15の先端に連続している。なお、各肩帯11と各サイドベルト15とは一本の連続した帯材にて構成されており、その帯材が肩帯11の先端11aにてほぼ90°に折り返されて肩帯11とサイドベルト15とが形成されている。肩帯11の後端11bはパッド13に縫い合わされている。肩帯11の開きを防止するため、肩帯11は背面側において連絡ベルト16により相互に連結されている。また、一方の肩帯11の前面側にも一对のオスバックル17a及びメスバックル17bによって連結及び分離が可能な連絡ベルト17が設けられている。但し、連絡ベルト17は本発明の子守帯において必須ではない。

【0019】

肩帯11には、横抱き用シート3等のアタッチメントを装着するための留め具として、上部メスバックル18b、リング19及び下部メスバックル20bがそれぞれ取り付けられている。肩帯11の途中には留め具固定ベルト21、22が縫い付けられ、それらのベルト21、22の先端に上部メスバックル18b及びリング19がそれぞれ取り付けられている。さらに、上部メスバックル18bは筒状のカバー23（図4では想像線で示す。）にて覆われている。カバー23の上端は留め具固定ベルト21とともに肩帯11に一体に縫い付けられている。カバー23の下端は開口しており、その開口部分から上部メスバックル18bにオスバックル18a（図6参照）を差し込むことができる。

【0020】

図5に詳しく示したように、肩帯11の先端11a、つまり肩帯11及びサイドベルト15の境界となる折り返し部分24にも留め具固定ベルト25が縫い付けられ、その留め

具固定ベルト 25 の先端に下部メスバックル 20 b が取り付けられている。下部メスバックル 20 b の肩帯 11 等からの浮き上がりを最小限に抑えるため、留め具固定ベルト 25 は下部メスバックル 20 b の基部（ここではベルト通し部 20 c）に隣接した位置で肩帯 11 の折り返し部分 24 に縫い付けられている。すなわち、留め具固定ベルト 25 の先端側のステッチライン 26 は下部メスバックル 20 b に隣接して設けられている。なお、留め具固定ベルト 25 の縫製は、肩帯 11 の先端 11 a とサイドベルト 15 との間の折り返し部分 24 の縫い合わせも兼ねるように肩帯 11 の裏面側まで一体的に実施される。

【0021】

子守帯本体 2 にアタッチメントを取り付ける際の留め具の判別を容易に行えるようにするため、子守帯本体 2 の留め具は互いに大きさ又は連結に関わる構造が異なっている。すなわち、上部メスバックル 18 b 及び下部メスバックル 20 b と区別するために中間の留め具はリング 19 とされている。また、上部メスバックル 18 b と下部メスバックル 20 b とは大きさが互いに異なっており、下部メスバックル 20 b は上部メスバックル 18 b よりも小さい。また、上部メスバックル 18 b と下部メスバックル 20 b とは相手部品としてのオスバックル 18 a、20 a との連結に関わる構造も互いに異なっている。すなわち、下部メスバックル 20 b はオスバックル 20 a（図 13 参照）との連結を解除するための一对の操作部 20 d を備えているのに対して、上部メスバックル 18 b はそのような操作部を有しない。上部メスバックル 18 b とオスバックル 18 a との連結を解除するための操作部はオスバックル 18 a に設けられている。連絡ベルト 17 のメスバックル 17 b もそのような操作部を有しないタイプであるが、上部メスバックル 18 b よりも小型のものがメスバックル 17 b として使用されることにより、メスバックル 17 b と上部メスバックル 18 b とが確実に判別できるよう配慮されている。なお、一对の上部メスバックル 18 b 同士は用途が同一であるために同一のものでよい。一对のリング 19 同士、一对のメスバックル 20 b 同士に関しても同様である。

【0022】

〔横抱き用シートについて〕

次に、横抱き用シート 3 の詳細を説明する。図 6 は横抱き用シート 3 の平面図、図 7 は横抱き用シート 3 の展開図である。これらの図に示すように、横抱き用シート 3 はシート本体 31 と、そのシート本体 31 に対して着脱可能なハンギングボード 32（図 8 参照）とを備えている。シート本体 31 は、幼児を寝かせるためのマット 33 と、そのマット 33 の頭部支持部 33 a の周囲を取り囲むように設けられたヘッドガード 34 と、マット 33 の臀部支持部 33 b を覆うように設けられた腹部パッド 35 と、臀部支持部 33 b の両側から延ばされて腹部パッド 35 と組み合わされる腹部ベルト 36 と、マット 33 の脚支持部 33 c から延ばされた臀部ベルト 37 とを備えている。なお、臀部ベルト 37 は主としてマット 33 に加えられる幼児の臀部側の荷重を支持するものであるが、幼児の股間に通されることから股ベルトと呼ばれることもある。

【0023】

マット 33 の内部にはマット 33 の形状を維持するための樹脂製の芯材（不図示）が設けられている。その芯材は、頭部支持部 33 a から臀部支持部 33 b にかけての範囲と、脚支持部 33 c とに分けて設けられており、それにより脚支持部 33 c は境界線 38（図 7 参照）の位置にて臀部支持部 33 b に対して折り曲げ可能である。

【0024】

図 8 に示すように、ハンギングボード 32 は帯状のマット受け部 32 a と、そのマット受け部 32 a の両端から同一方向に突出する一对のアーム部 32 b、32 c とを備えている。図 7 に破線で示したように、マット受け部 32 a はマット 33 の内部を芯材よりも下側に通されて芯材に加わる荷重を下から支える機能を果たす。アーム部 32 b、32 c はそれぞれマット 33 の両側から上方に突出する。図 8 に詳しく示したように、一方のアーム部 32 b の先端には吊り下げベルト 40 の基部 40 a が取り付けられている。その吊り下げベルト 40 の途中にはオスバックル 18 a が取り付けられている。オスバックル 18 a は上述した子守帯本体 2 の上部メスバックル 18 b に連結されるものであり、その一对

の爪部 18 c には連結解除用の操作部 18 d が設けられている (図 6 参照)。なお、基部 40 a からオスバックル 18 a までの長さは調整可能である。

【0025】

反対側のアーム部 32 c の先端には連結ベルト 41 を介してフック 42 が取り付けられている。フック 42 は上述したリング 19 に対して連結可能である。なお、連結ベルト 41 の長さは調整不能である。さらに、図 8 から明らかなように、アーム部 32 b、32 c のそれぞれの先端には連絡ベルト 43 a、43 b が取り付けられている。これらの連絡ベルト 43 a、43 b にはそれぞれオスバックル 44 a 及びメスバックル 44 b が取り付けられている。図 6 に示すように、ハンギングボード 32 をマット 33 に取り付けてバックル 44 a、44 b を相互に連結することにより、横抱き用シート 3 を幅方向に横断する一本の胸部ベルト 43 がマット 33 の上方に構成される。なお、アーム部 32 c の先端からオスバックル 44 a までの長さは調整可能である。

【0026】

図 7 に示すように、腹部パッド 35 はその基部 46 a が脚支持部 33 c の後端中央と連結される股押え部 46 と、その股押え部 46 に続いて横抱き用シート 3 の幅方向両側に広がる腹押え部 47 とを有している。腹押え部 47 の先端にはさらに胸部パッド 50 が続けて設けられている。これら腹部パッド 35 及び胸部パッド 50 は股押え部 46 の基部 46 a と脚支持部 33 c との連結位置を軸として一体的に折り曲げ可能である。両パッド 35、50 はマット 33 上に重ねられた状態から、最大ではほぼ 180° 近く折り返すことができる。さらに、図 9 に示すように胸部パッド 50 は腹部パッド 35 に対して折り曲げ可能である。

【0027】

図 10 に詳しく示すように、腹部パッド 35 の表側には腹部ベルト 36 を通すためのベルト通し 52 及びリング 53 が設けられている。図 6 及び図 7 にも示したように、マット 33 の臀部支持部 33 b の両側には一対の連結ベルト 36 a、36 b が取り付けられている。これらの連絡ベルト 36 a、36 b にはそれぞれオスバックル 54 a、メスバックル 54 b が取り付けられており、それらのバックル 54 a、54 b を相互に連結することにより一本の腹部ベルト 36 が形成される。一方の連結ベルト 36 a は腹部パッド 35 の全幅よりも十分に長く設けられている。横抱き用シート 3 の使用時には、図 10 に示すように、オスバックル 54 a を先頭にして連結ベルト 36 a がベルト通し 52 に通された上で、そのオスバックル 54 a がメスバックル 54 b と連結されることにより、腹部パッド 35 の腹押え部 47 と腹部ベルト 36 とが相互に連結される。なお、連結ベルト 36 a とマット 33 との連結位置からオスバックル 54 a までの長さは調整可能である。

【0028】

図 6 に示すように、臀部ベルト 37 は腹部パッド 35 の股押え部 46 の表面に沿って配置され、その基部 37 a は股押え部 46 と同様にマット 33 の脚支持部 33 c の後端中央に連結されている。臀部ベルト 37 はリング 53 に通されており、そのリング 53 のさらに先にオスバックル 18 a が取り付けられている。オスバックル 18 a は、上述したハンギングボード 32 に設けられるオスバックル 18 a と同様に肩帯 11 側の上部メスバックル 18 b と連結されるものである。図 10 に示すように、リング 53 はリング固定ベルト 55 を介して腹部パッド 35 の腹押え部 47 の表面に固定されている。リング固定ベルト 55 はベルト通し 52 に覆われる位置に配置されており、ベルト通し 52 の一端側からベルト通し 52 内に挿入された連絡ベルト 36 a はそのリング固定ベルト 55 の上方を通過してベルト通し 52 の反対側に引き出される。このため、臀部ベルト 37 を子守帯本体 2 の上部バックル 18 b から吊り上げたときに腹部ベルト 36 も一緒に持ち上げられるようになる。その結果、臀部ベルト 37 に作用する吊り下げ反力が腹部ベルト 36 と臀部支持部 33 b との連結位置及び臀部ベルト 37 と脚支持部 33 c との連結位置の三点に分散される。これにより、マット 33 の臀部側をいわゆる三点で吊り下げ支持でき、高い安定性を得ることができる。

【0029】

図6に示すように、胸部パッド50はマット33側へ折り返したときにハンギングボード32の取付位置まで達するように設けられている。図11及び図12に詳しく示したように、胸部パッド50の先端部50aの両側には胸部ベルト43の連絡ベルト43a、43bをそれぞれ通すためのベルト通し50b、50cが設けられている。これらのベルト通し50b、50cに連絡ベルト43a、43bを通してバックル44a、44bを連結することにより、胸部パッド50の先端部50aを胸部ベルト43にて吊り下げ支持して胸部パッド50のマット33への垂れ下がりを防止し、それらの間に適度な空間を確保することができる。

【0030】

図13に示すように、マット33の幅方向一方の側縁（図6において上側の側縁）には留め具固定ベルト56を介して一对のオスバックル20aが設けられている。これらのオスバックル20aは子守帯本体2に設けられた下部メスバックル20bに連結されるものである。留め具固定ベルト56はマット33の裏面側にほぼ全長に亘って縫い付けられており、その先端にオスバックル20aが取り付けられている。マット33に対するオスバックル20aの振れを最小限に抑えるため、留め具固定ベルト56もオスバックル20aの直ぐ隣でマット33に縫い付けられている。

【0031】

〔横抱き用シートの使用方法〕

次に、横抱き用シート3の使用方法を説明する。横抱き用シート3を使用する場合にはまず図7に示すようにマット33にハンギングボード32を取り付けるとともに、腹部パッド35及び胸部パッド50を開く。この状態でマット33に幼児を載せ、腹部パッド35をマット33側に戻してパッド35、50で幼児を覆う。次に、ベルト通し52に連絡ベルト36a、36bを通してバックル54a、54bを相互に連結することにより、腹部ベルト36と腹部パッド35とを相互に組み合わせる。この際、オスバックル54aの位置を調整することにより腹部ベルト36の長さを幼児の下腹部回りの大きさに合わせることができる。また、胸部パッド50のベルト通し50b、50cに連絡ベルト43a、43bを通し、バックル44a、44bを相互に連結することにより、胸部ベルト43と胸部パッド50とを相互に組み合わせる。この際、オスバックル44aの位置を調整することにより胸部ベルト43の長さを幼児の胸回りの大きさに合わせることができる。

【0032】

マット33に寝かせた幼児を上記の手順で腹部パッド35及び胸部パッド50で覆った後、横抱き用シート3を次のようにして子守帯本体2に連結する。すなわち、図2に示すように、ハンギングボード32に取り付けられたオスバックル18aを子守帯本体2の左肩側（図4において右側）の肩帯11の上部メスバックル18bと連結し、同じ側のリング19にフック42を連結する。また、臀部ベルト37に取り付けられたオスバックル18aを反対側、すなわち右側用の肩帯11の上部メスバックル18bに連結する。さらに、図13に示すようにオスバックル20aを下部メスバックル20bにそれぞれ連結する。これにより、図1及び図2に示すように横抱き用シート3を子守帯本体2に装着して幼児を横抱き姿勢で保持することができる。

【0033】

以上に説明したように、本形態の子守帯1によれば、上部メスバックル18bとオスバックル18aとの連結位置やリング19とフック42との連結位置から横抱き用シート3を吊り下げる構成であっても、子守帯本体2の下部に設けられた下部メスバックル20bと横抱き用シート3の側縁に配置されたオスバックル20aとを連結することにより、上部メスバックル18bやリング19による吊り下げ支持点を中心とした横抱き用シート3の揺れを抑えることができる。従って、使用者が前屈みになったり、右又は左に身を捻るような動作をしても横抱き用シート3が子守帯本体2に対して離れず、使用者が横抱き用シート3の揺れを止めるべくこれに手を添える必要がない。そのため使用者の負担が軽減され、かつ使用者の両手が自由になるので子守帯1の使い勝手が向上する。

【0034】

また、子守帯本体2に設けられたアタッチメント用留め具としての上部メスバックル18b、リング19、及び下部メスバックル20bの大きさ又は連結に関わる構造が互いに異なっているために横抱き用シート3を装着する際に適切な留め具を容易に判別できる。さらに、胸部パッド50によって幼児の胸部を覆うようにしたので、横抱き用シート3に支持された幼児をより確実に保護することができる。

【0035】

〔縦抱き用シートについて〕

次に、幼児を縦抱き状態で保持する際に使用される縦抱き用シートの一例を説明する。図14は子守帯1にて使用される縦抱き用シートの正面図、図15はその縦抱き用シートの裏面図である。これらの図に示すように、縦抱き用シート60は、幼児の股間に通される底部62と、その底部62の上方に連続する胴覆い部63と、その胴覆い部63の上方に連続する中間支持部64と、その中間支持部64の上方に連続するヘッドキープ65とを備えている。

【0036】

底部62は幼児の臀部が載せられる部分であり、その両側には幼児の足を出すための足抜き部66が設けられている。胴覆い部63は幼児の胴部回りに巻き回せるように二つ折り状に形成されており、その両端に設けられたホック63a、63bを相互に連結することにより筒状に組み立てられる。なお、ホック63a、63bはそれぞれ上下一対設けられるが、図15では上側のホック63aと下側のホック63bのみが示されている。胴覆い部63の周囲には胴ベルト67が設けられている。その胴ベルト67の先端のオスバックル68a及びメスバックル68b（図16参照）を相互に連結することにより胴ベルト67が一本のループ状に繋がって胴覆い部63が取り囲まれる。

【0037】

また、胴覆い部63には上下方向に延びる臀部ベルト69が取り付けられている。その臀部ベルト69は底部62を経由して胴覆い部63の表裏に渡され、その両端が胴覆い部63に縫い付けられている。縦抱き用シート60の裏面側において臀部ベルト69は胴ベルト67との交差部70にて胴ベルト67とともに胴覆い部63に一体的に縫い付けられている。一方、縦抱き用シート60の表面側において臀部ベルト69は胴ベルト67に縫い付けられているが、その縫い付け箇所はポケット71に隠れて見えていない。臀部ベルト69の途中には長さ調整用のラダー72が設けられている。ラダー72を利用して臀部ベルト69の長さを調整することにより底部62の深さを幼児の体格に応じて変化させることができる。

【0038】

さらに、底部62の裏面側（図15）には子守帯本体2の下部メスバックル20bと連結可能な一對のオスバックル20aが留め具固定ベルト73を介して取り付けられている。また、胴ベルト67には子守帯本体2のリング19と連結可能な一對のフック42が留め具固定ベルト73を介して取り付けられている。ヘッドキープ65にはサポートベルト74が挿通されている。サポートベルト74の両端には子守帯本体2の上部メスバックル18bと連結可能なオスバックル18aが留め具固定ベルト75を介して取り付けられている。

【0039】

以上のような縦抱き用シート60は次のようにして使用される。まず、幼児を後向き又は前向き状態で底部62に載せて両足を足抜き部66に通し、その幼児の胴回りを胴覆い部63で包んでホック63a、63bを相互に連結する。次に、バックル68a、68bを相互に連結して胴ベルト67を締め合わせ、胴覆い部63の幼児を適度に拘束する。この際、幼児の体格に合わせて胴ベルト67のオスバックル68aの位置を調整する。なお、幼児を後向き（幼児が使用者と対面する向き）に載せた場合、中間支持部64は幼児の背当て部として機能し、幼児を前向きに載せた場合、中間支持部64は幼児の胸当て部として機能する。

【0040】

以上の手順によって幼児を縦抱き用シート 60 に載せた後、次のようにして縦抱き用シート 60 を子守帯本体 2 に装着する。横抱き用シート 3 を次のようにして子守帯本体 2 に連結する。すなわち、ハンギングボード 32 に取り付けられたオスバックル 18 a を子守帯本体 2 の各肩帯 11 の上部メスバックル 18 b と連結し、フック 42 を肩帯 11 のリング 19 に連結する。また、底部 62 のオスバックル 20 a は子守帯本体 2 の下部メスバックル 20 b と連結する。これにより、図 16 に示すように縦抱き用シート 60 を子守帯本体 2 に取り付けて幼児を縦抱き姿勢で保持することができる。なお、縦抱き用シート 60 に幼児を取り込む前にオスバックル 20 a を子守帯本体 2 の下部メスバックル 20 b と連結してもよい。

【0041】

以上のように、縦抱き用シート 60 を子守帯本体 2 に取り付ける場合でも、子守帯本体 2 に設けられたアタッチメント用留め具としての上部メスバックル 18 b、リング 19、及び下部メスバックル 20 b の大きさ又は構造が互いに異なっているために適切な留め具を容易に判別することができる。なお、上記で示した縦抱き用シートは一例であり、縦抱き用シートには種々の構成のものを使用してよい。

【0042】

以上の実施形態においては、上部メスバックル 18 b 及びリング 19 が上部留め具に、下部メスバックル 20 b が下部留め具にそれぞれ相当する。また、ハンギングボード 32 (但し、その付属品としての吊り下げベルト 40、オスバックル 18 a、連結ベルト 41 及びフック 42 を含む。) が頭部側吊り下げ具に、腹部パッド 35 (但し、その付属品としてのベルト通し 52、リング 53 及びリング固定ベルト 55 を含む。)、腹部ベルト 36 (バックル 54 a、54 b を含む。)、及び臀部ベルト 37 (オスバックル 18 a を含む。) が臀部側吊り下げ具にそれぞれ相当し、これらの組み合わせが吊り下げ具に相当する。

【0043】

本発明は上記の形態に限定されることなく種々の形態にて実施してよい。例えばバックル 18 a、18 b の雌雄関係、及びバックル 20 a、20 b の雌雄関係は上記の形態に対して反対でもよい。つまり、子守帯本体 2 にオスバックル 18 a、20 a を装着し、メスバックル 18 b、20 b を横抱き用シート 3、縦抱き用シート 60 に設けてもよい。下部メスバックル 20 b 及びこれと組み合わされるオスバックル 20 a は一つずつ設けられてもよい。横抱き用シートの両側に揺れ止め用留め具を設けてもよい。子守帯を横抱き専用として構成してもよい。

【0044】

子守帯本体の留め具の大きさや構造を互いに異なるものとする技術思想については、下部留め具と揺れ止め用留め具とを設ける子守帯に限らず、使用者に装着される子守帯本体と、横抱き用シートや縦抱き用シートといったアタッチメントとを組み合わせる使用各種の子守帯に適用可能である。また、腹部パッドに連続して胸部パッドを設ける技術思想についても、下部留め具と揺れ止め用留め具とを設ける子守帯に限らず、使用者に装着される子守帯本体と、横抱き用シートとを組み合わせる使用各種の子守帯に適用可能である。

【図面の簡単な説明】

【0045】

- 【図 1】 本発明の一形態に係る子守帯の正面図。
- 【図 2】 本発明の一形態に係る子守帯の臀部側からの斜視図。
- 【図 3】 子守帯本体を背面側から展開した様子を示す図。
- 【図 4】 子守帯本体の使用者への装着時の様子を示す図。
- 【図 5】 下部メスバックルの取付部分の拡大図。
- 【図 6】 横抱き用シートの平面図。
- 【図 7】 横抱き用シートの展開図。
- 【図 8】 ハンギングボードの斜視図。

【図 9】横抱き用シートの斜視図。

【図 10】横抱き用シートの臀部側の拡大図。

【図 11】胸部パッドとハンギングボードとの連結部分の拡大図。

【図 12】胸部パッドとハンギングボードとの連結部分を別の方向から見た拡大図。

【図 13】横抱き用シートの揺れ止め用オスバックルと子守帯本体の下部メスバックルとの連結部分の拡大図。

【図 14】子守帯にて使用される縦抱き用シートの正面図。

【図 15】縦抱き用シートの裏面図。

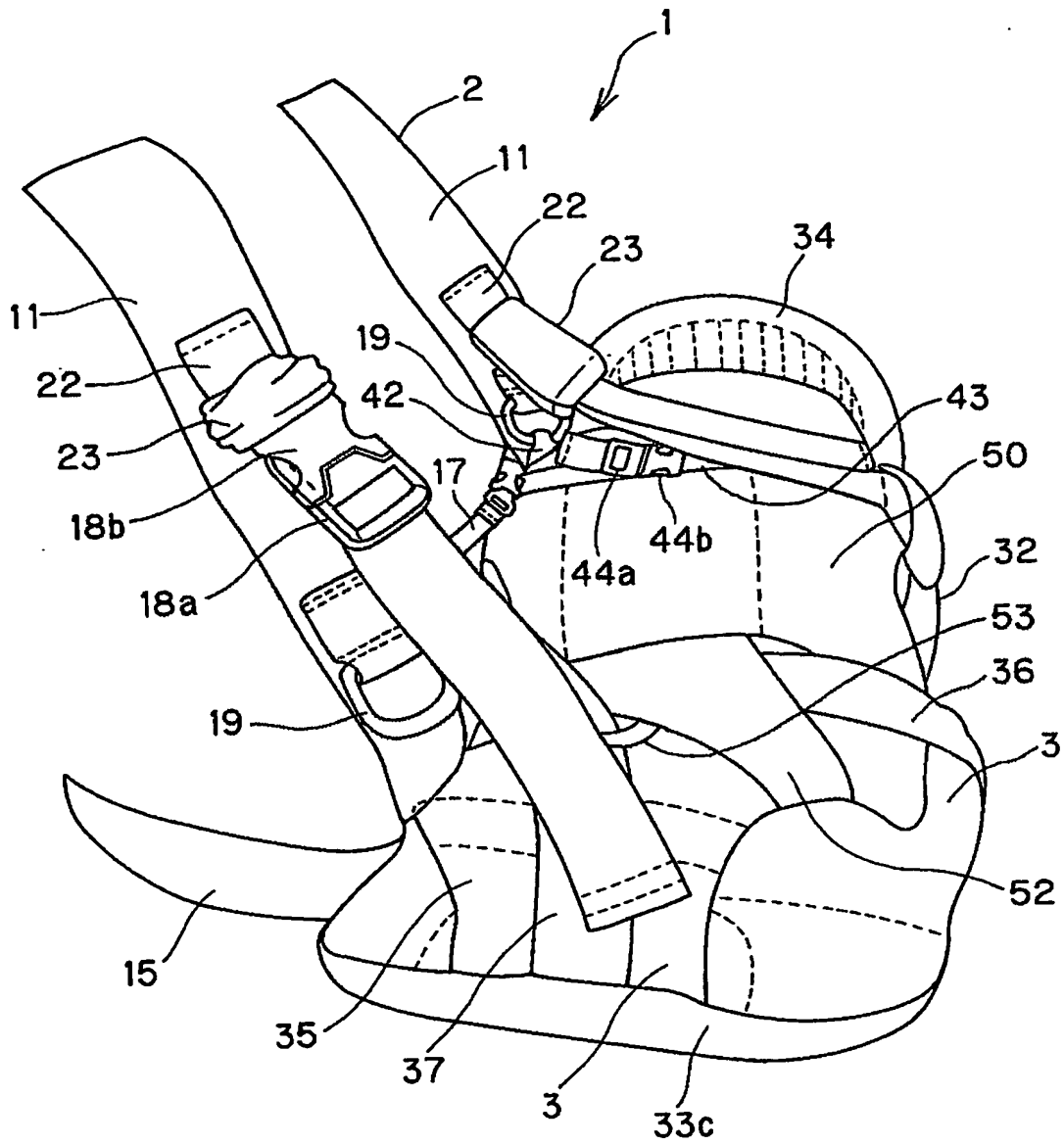
【図 16】縦抱き用シートを子守帯本体に装着した様子を示す図。

【符号の説明】

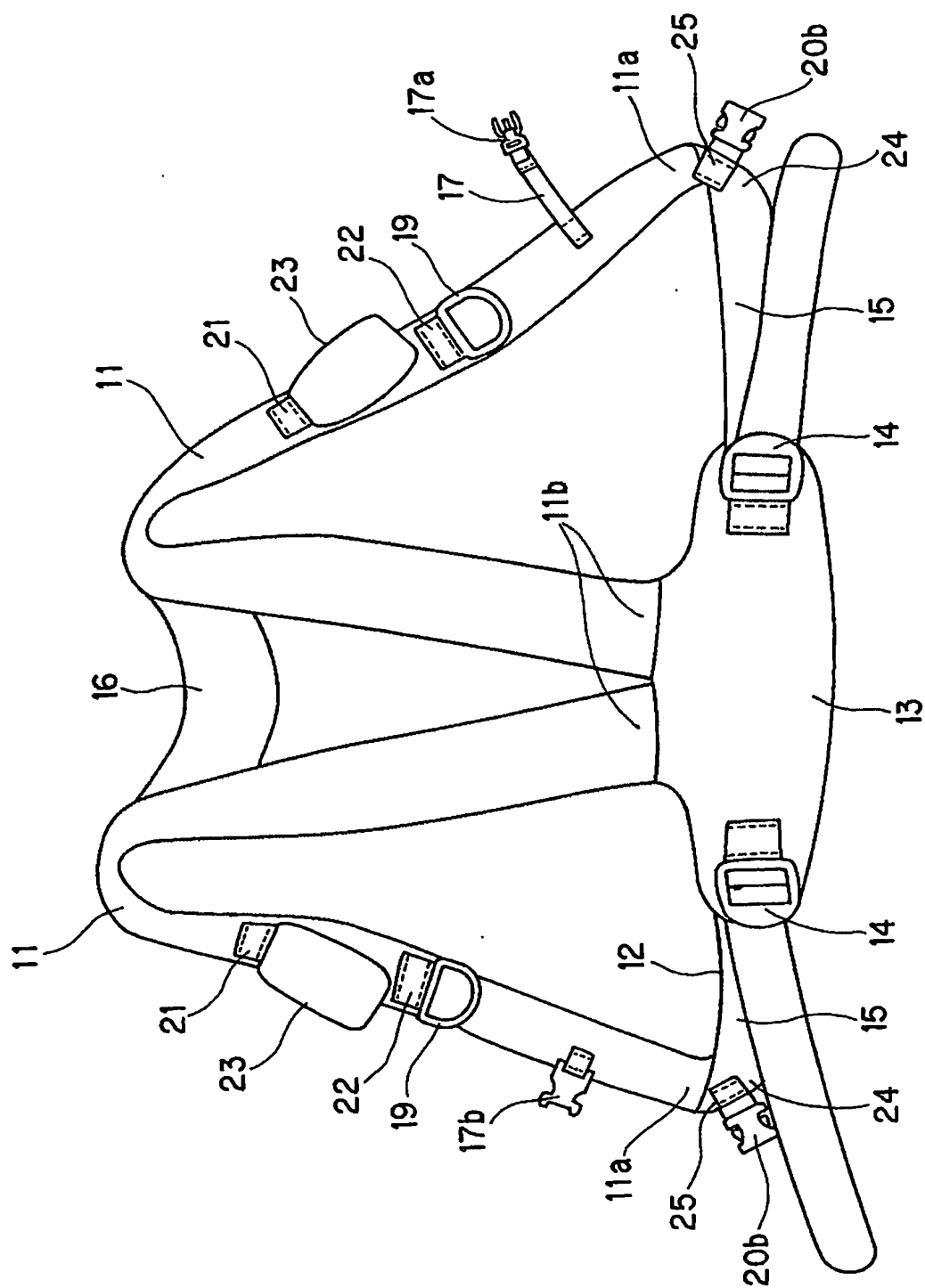
【0046】

- 1 子守帯
- 2 子守帯本体
- 3 横抱き用シート
 - 11 肩帯
 - 12 腰帯
 - 13 パッド
 - 18a オスバックル
 - 18b 上部メスバックル（上部留め具）
 - 19 リング（上部留め具）
 - 20a オスバックル（揺れ止め用留め具）
 - 20b 下部メスバックル（下部留め具）
 - 25 留め具固定ベルト
 - 31 シート本体
 - 32 ハンギングボード（頭部側吊り下げ具）
 - 33 マット
 - 33a 頭部支持部
 - 33b 臀部支持部
 - 33c 脚支持部
 - 34 ヘッドガード
 - 35 腹部パッド（臀部側吊り下げ具）
 - 36 腹部ベルト（臀部側吊り下げ具）
 - 37 臀部ベルト（臀部側吊り下げ具）
 - 40 吊り下げベルト（頭部側吊り下げ具）
 - 41 連結ベルト（頭部側吊り下げ具）
 - 42 フック（頭部側吊り下げ具）
 - 43 胸部ベルト
 - 50 胸部パッド
 - 50b、50c ベルト通し
 - 52 ベルト通し（臀部側吊り下げ具）
 - 53 リング（臀部側吊り下げ具）
 - 54a オスバックル（臀部側吊り下げ具）
 - 54b メスバックル（臀部側吊り下げ具）
 - 55 留め具固定ベルト（臀部側吊り下げ具）
 - 56 揺れ止め用留め具に対する留め具固定ベルト
- 60 縦抱き用シート

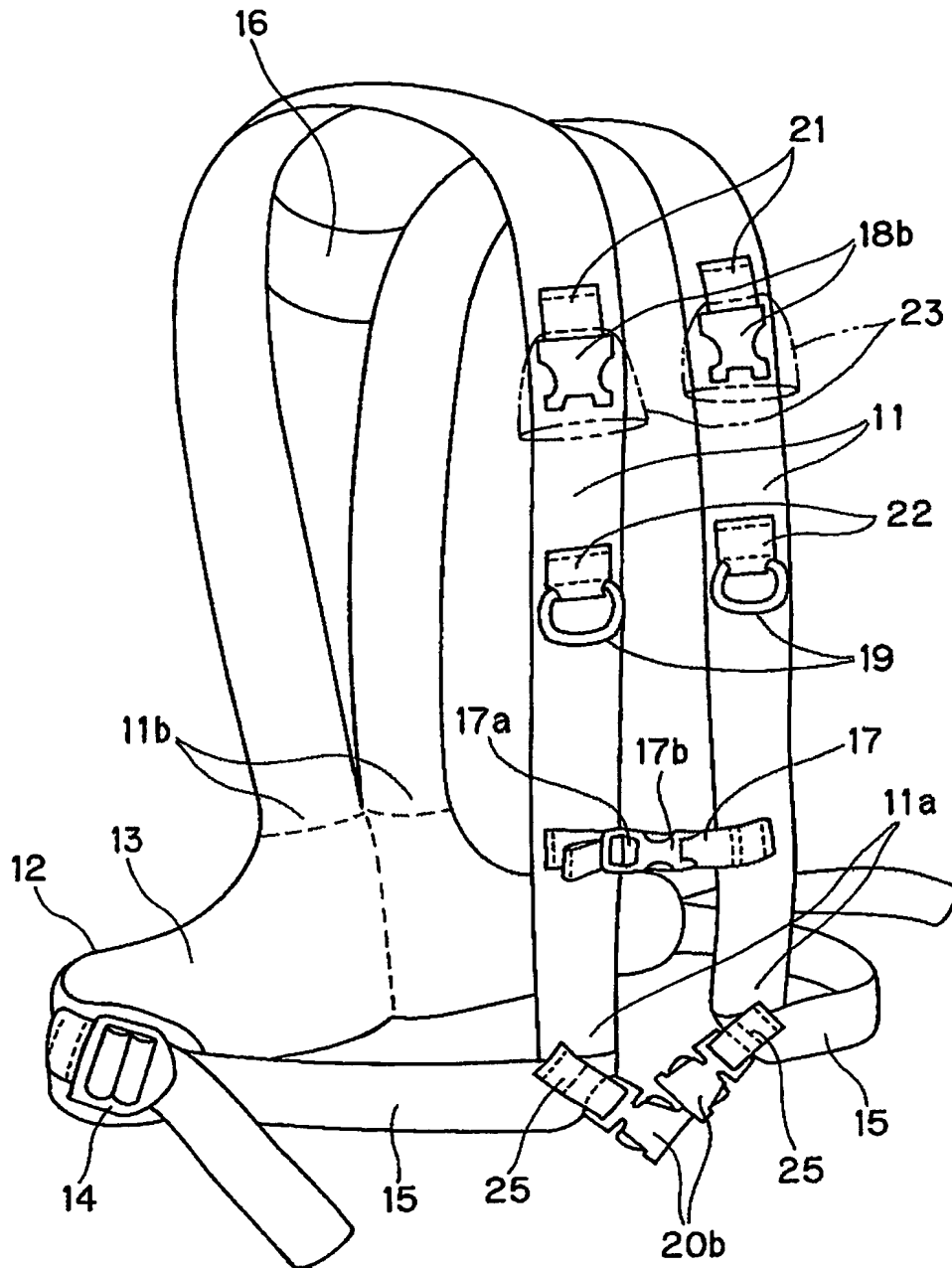
【図 2】



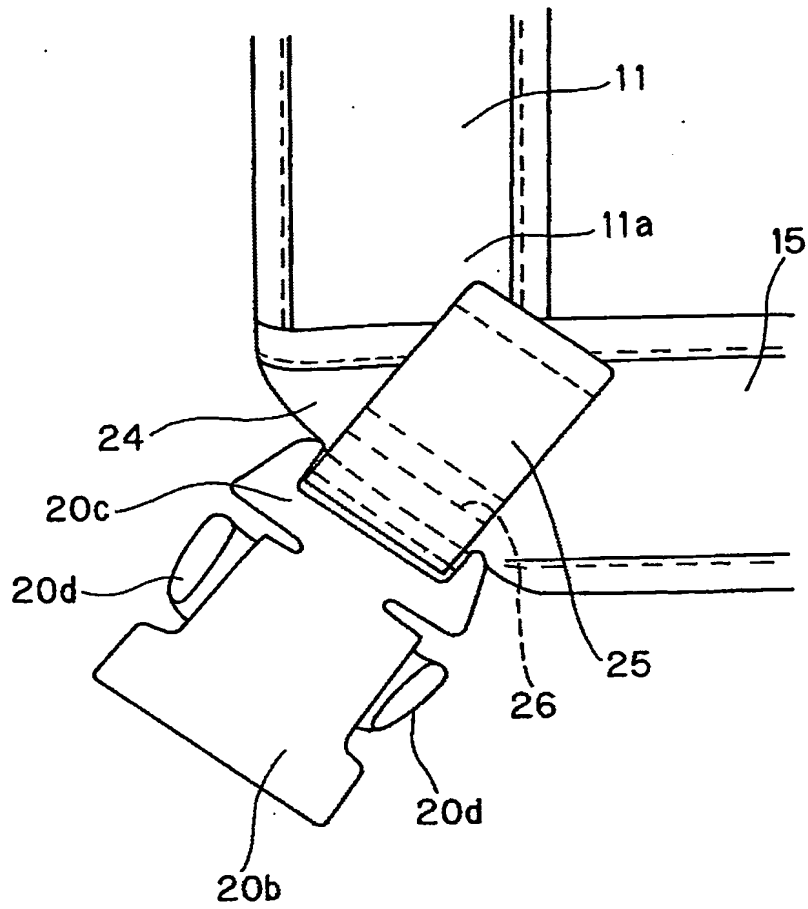
【図3】



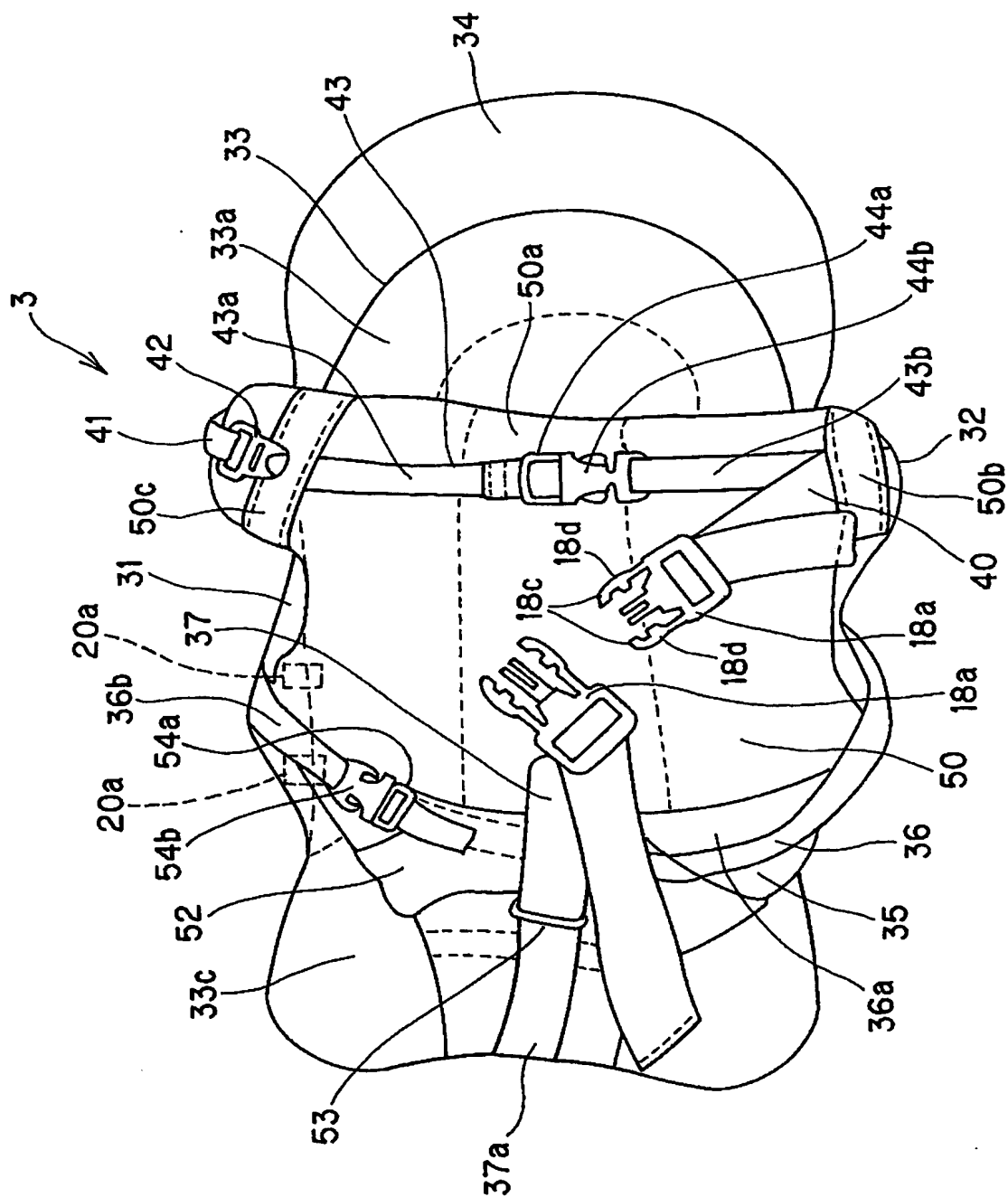
【図 4】



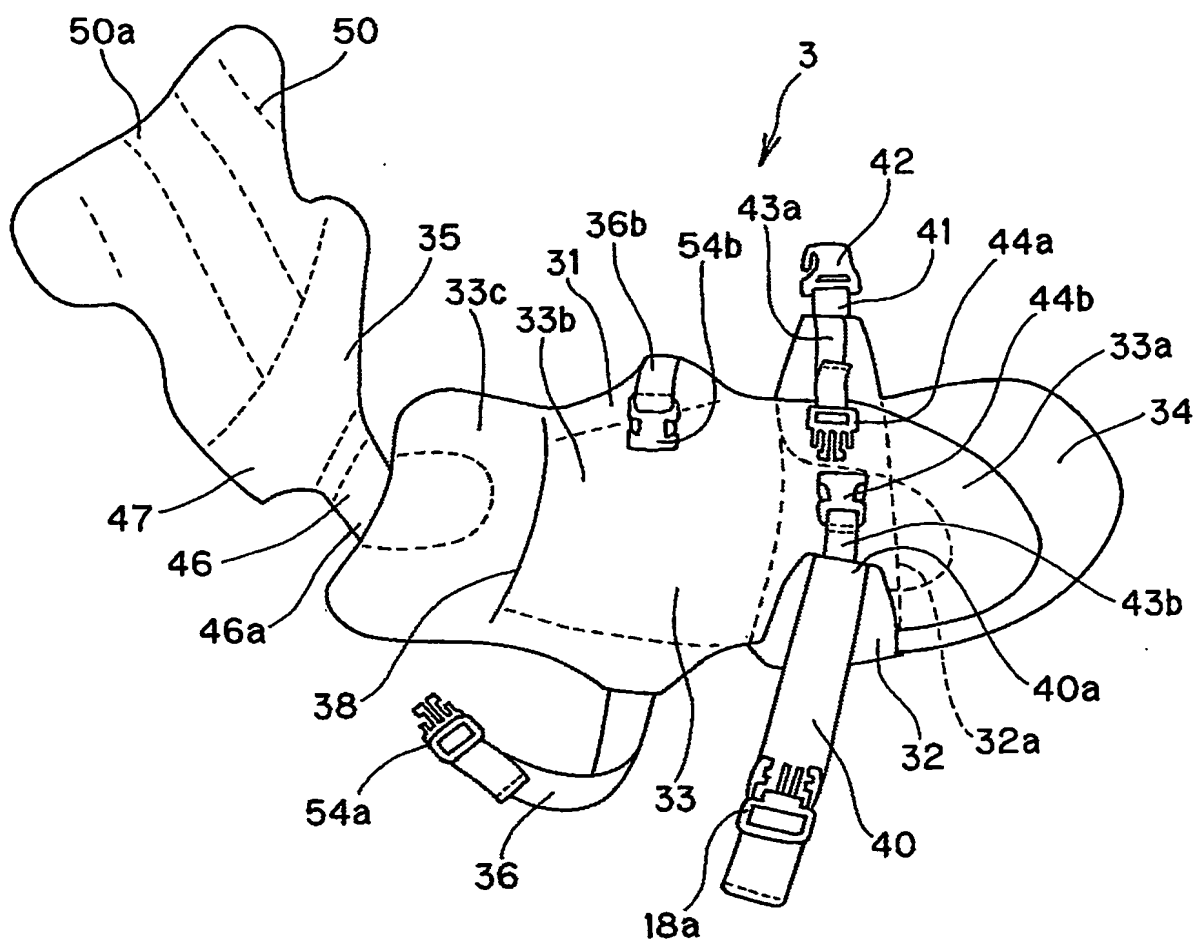
【図 5】



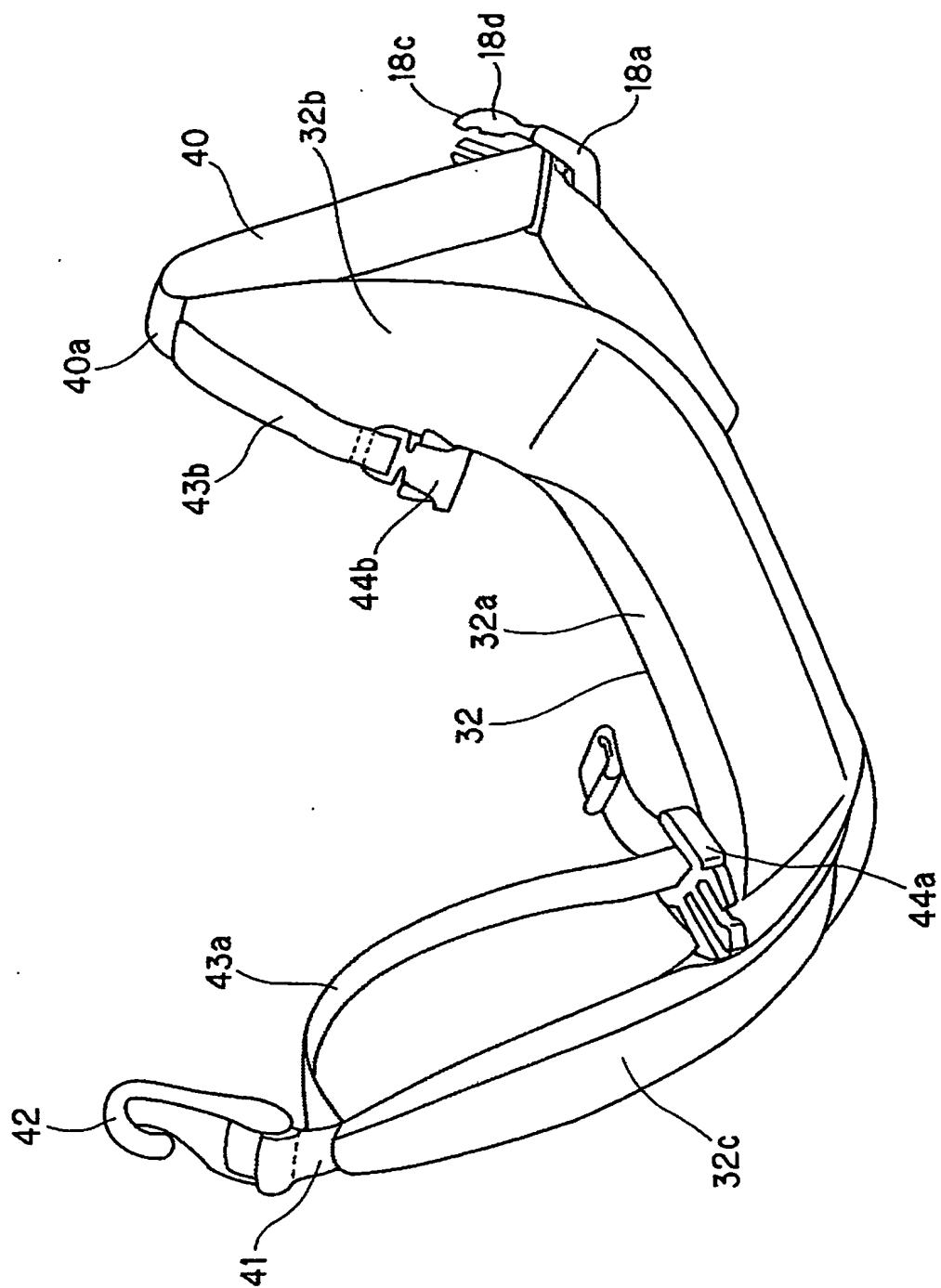
【図 6】



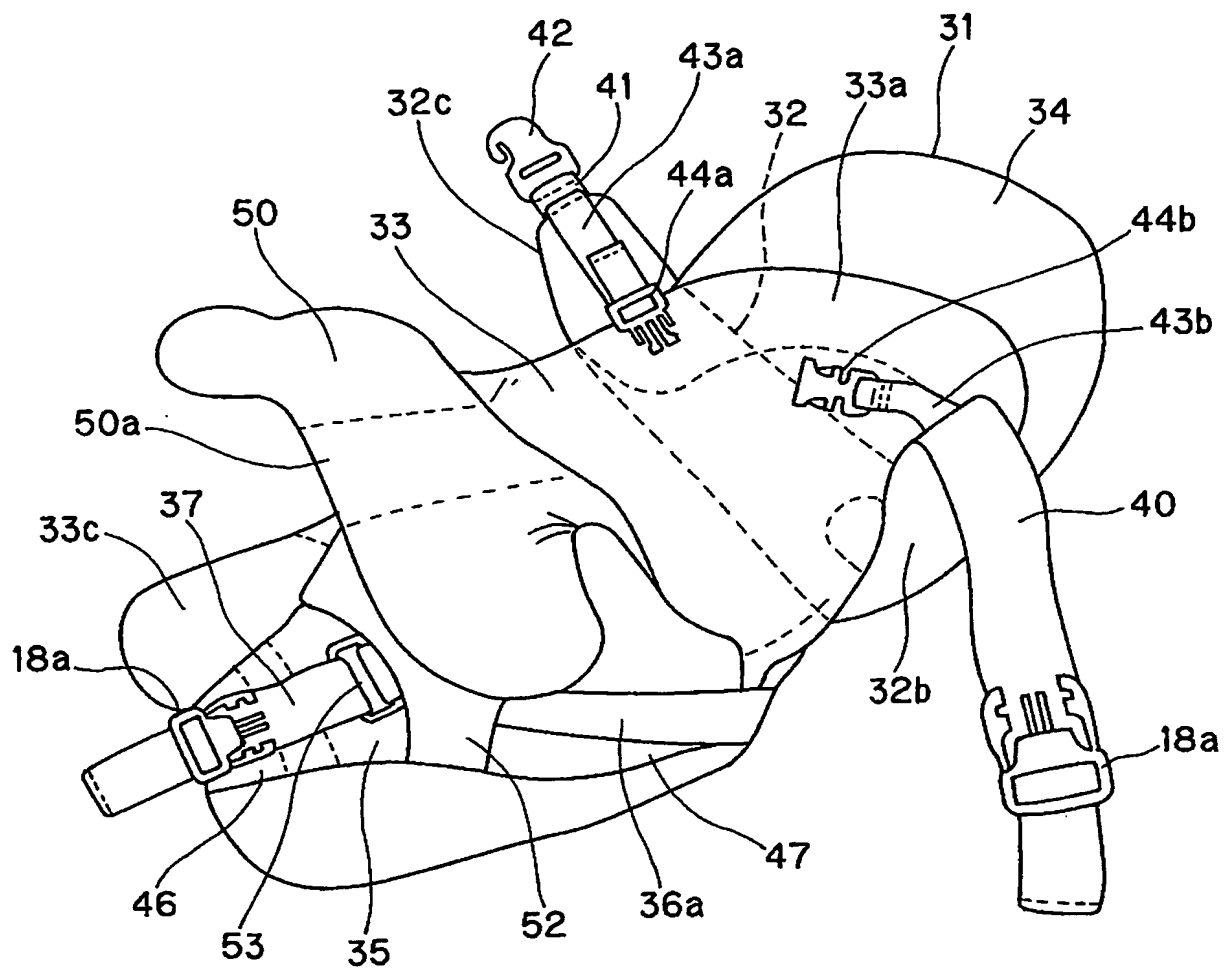
【図 7】



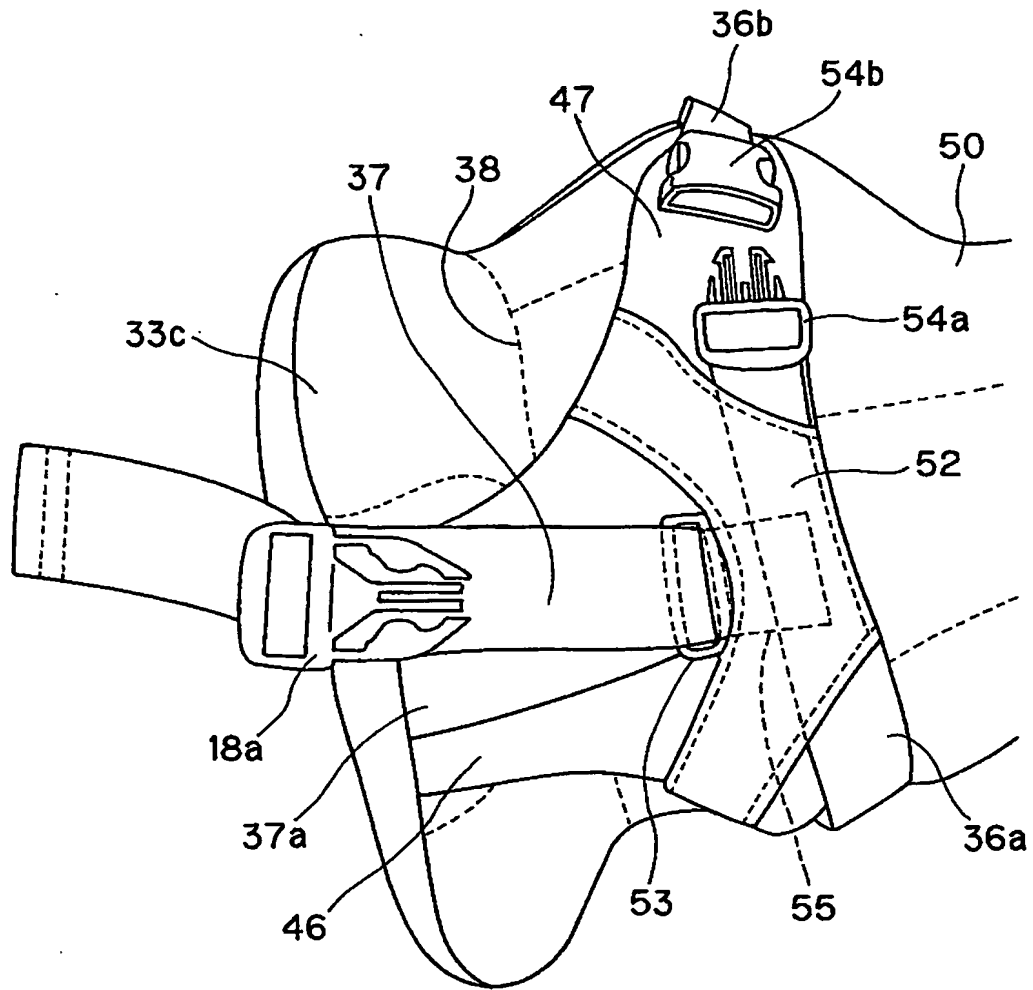
【図 8】



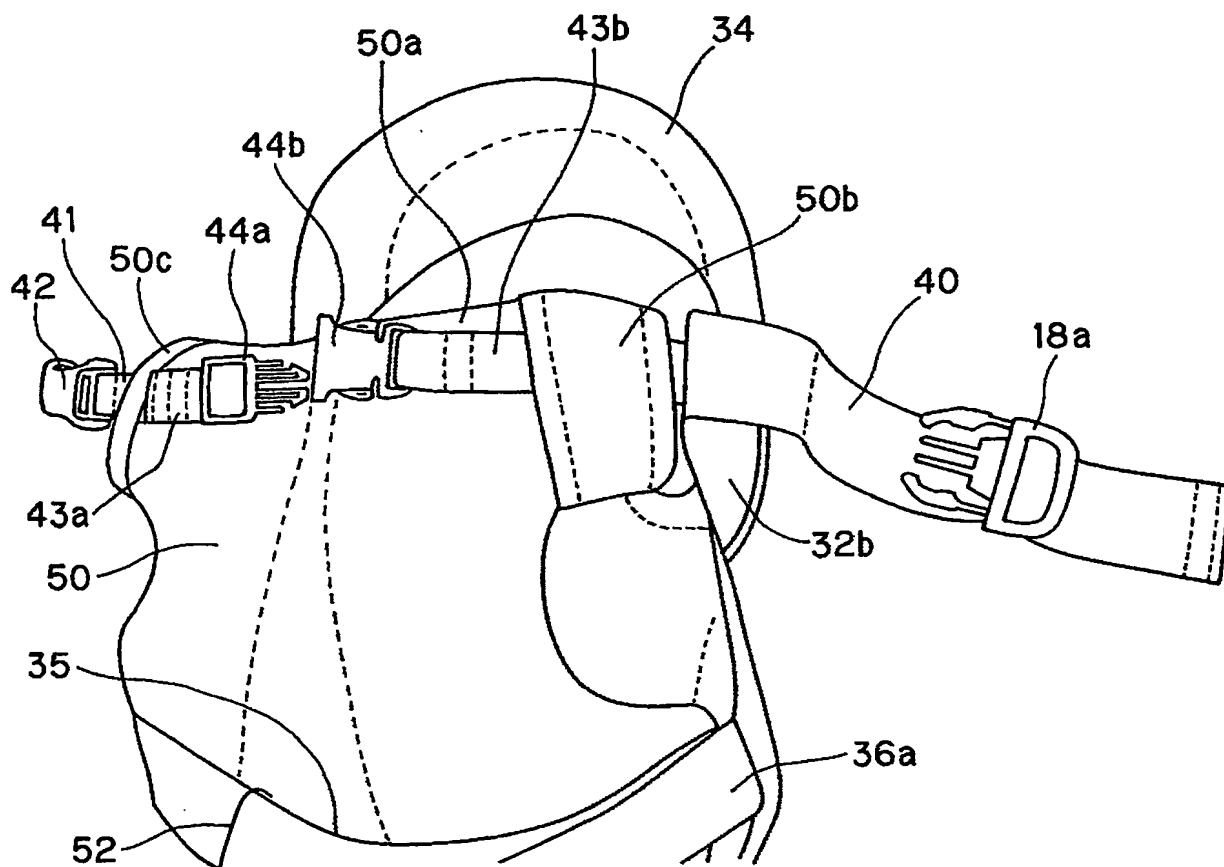
【図 9】



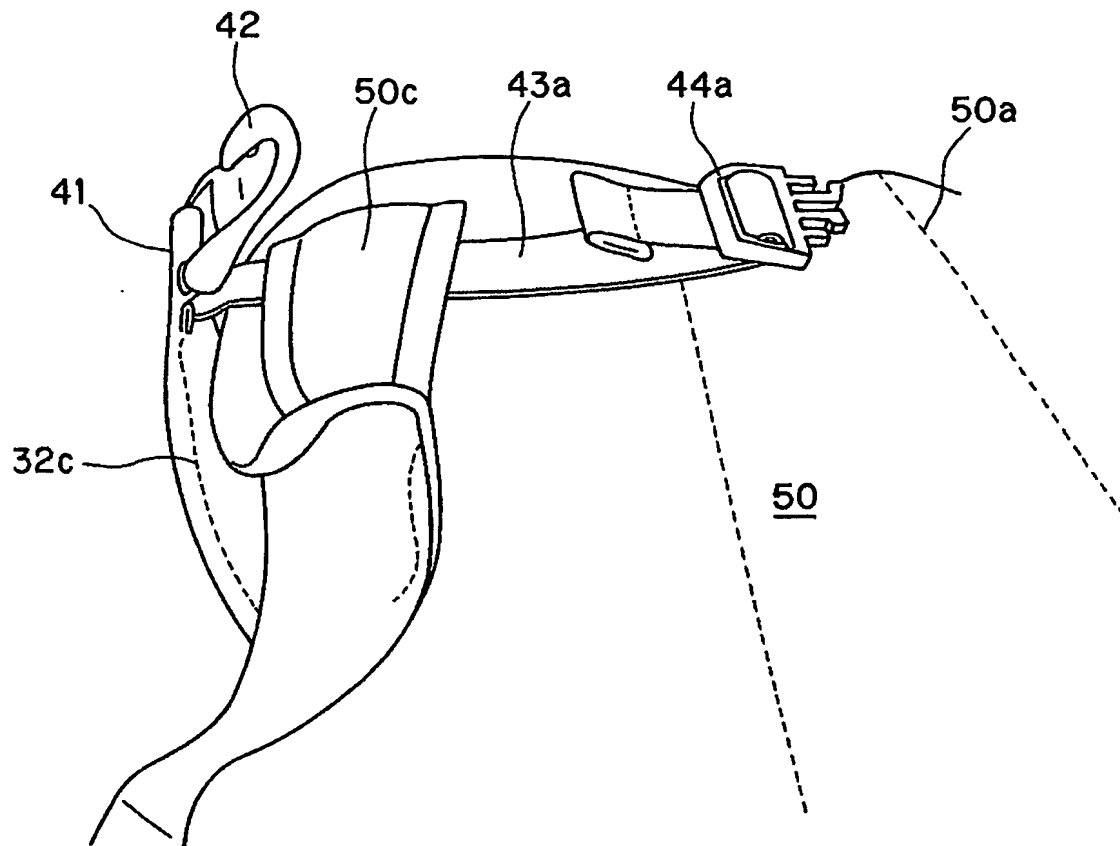
【図 10】



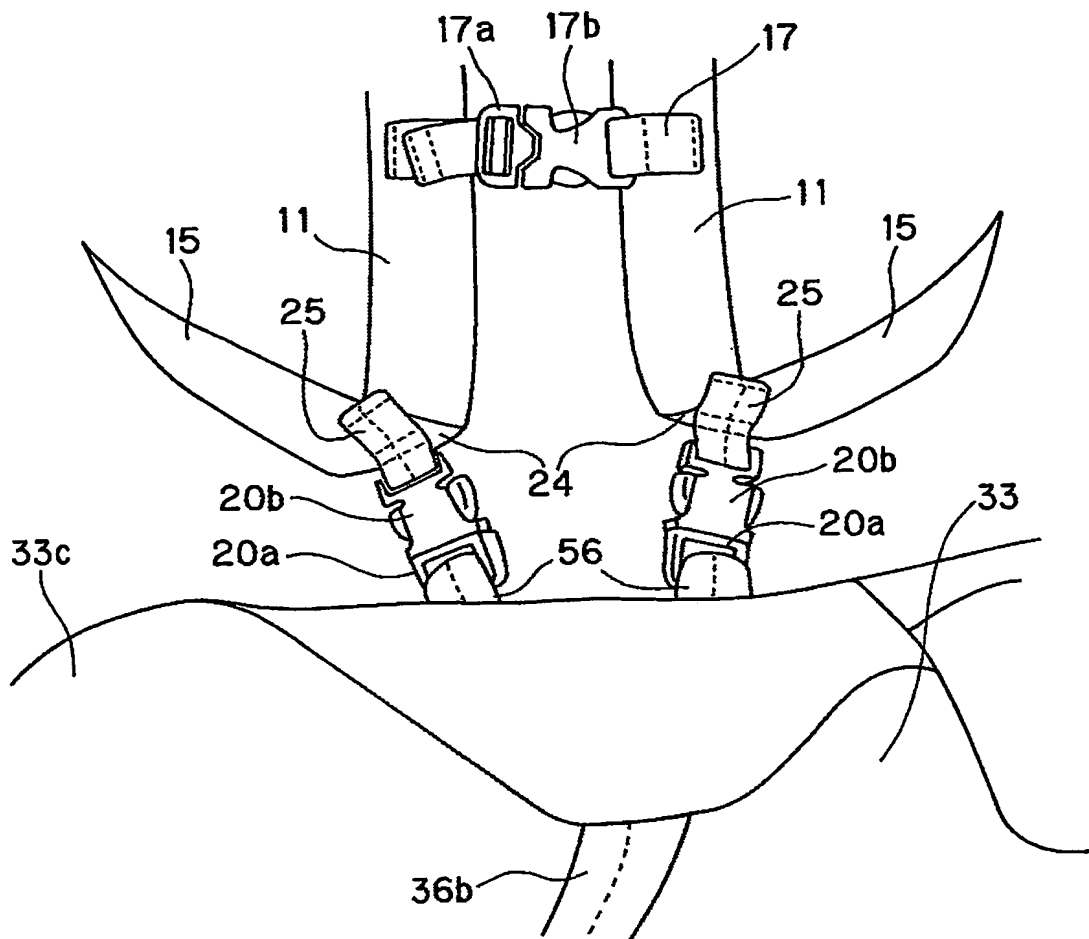
【図 11】



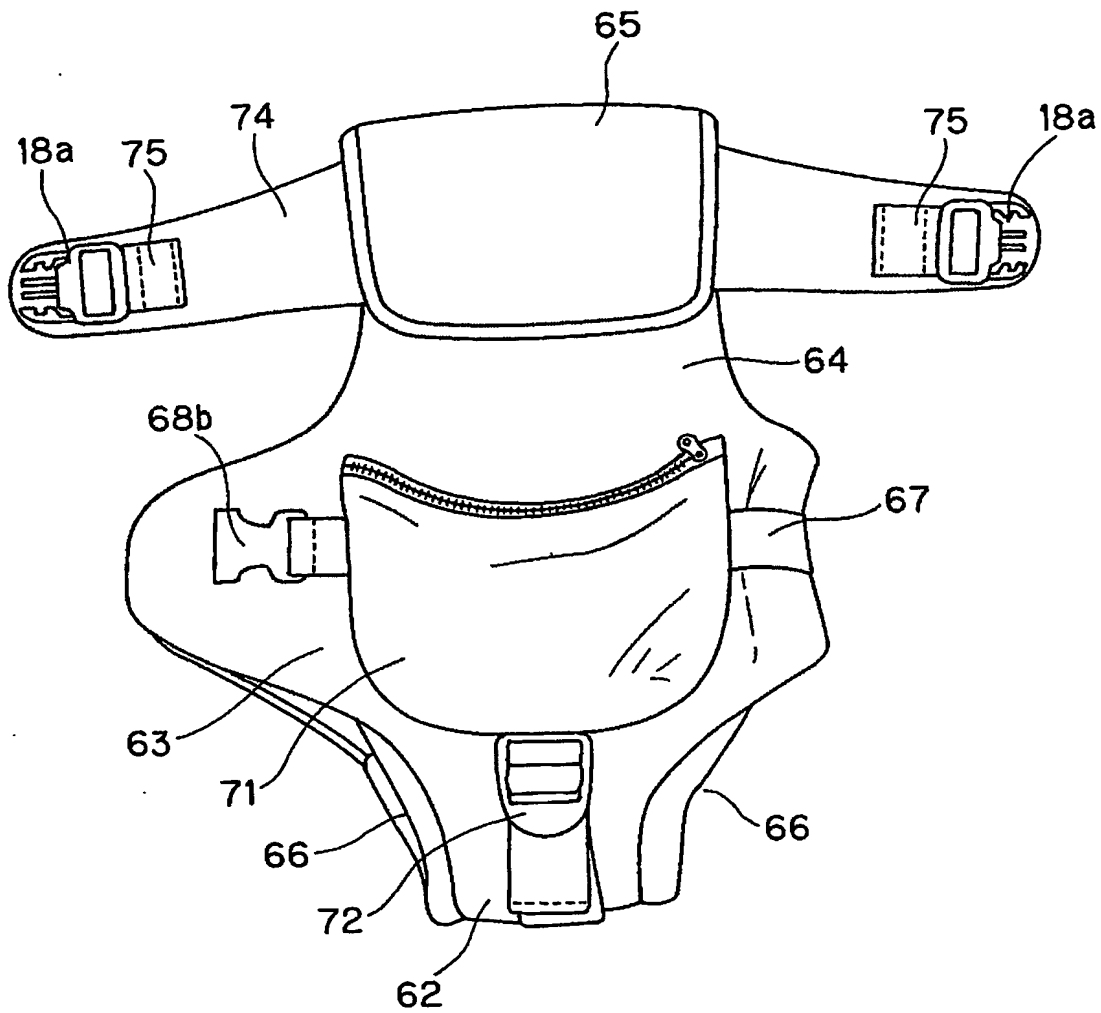
【図 12】



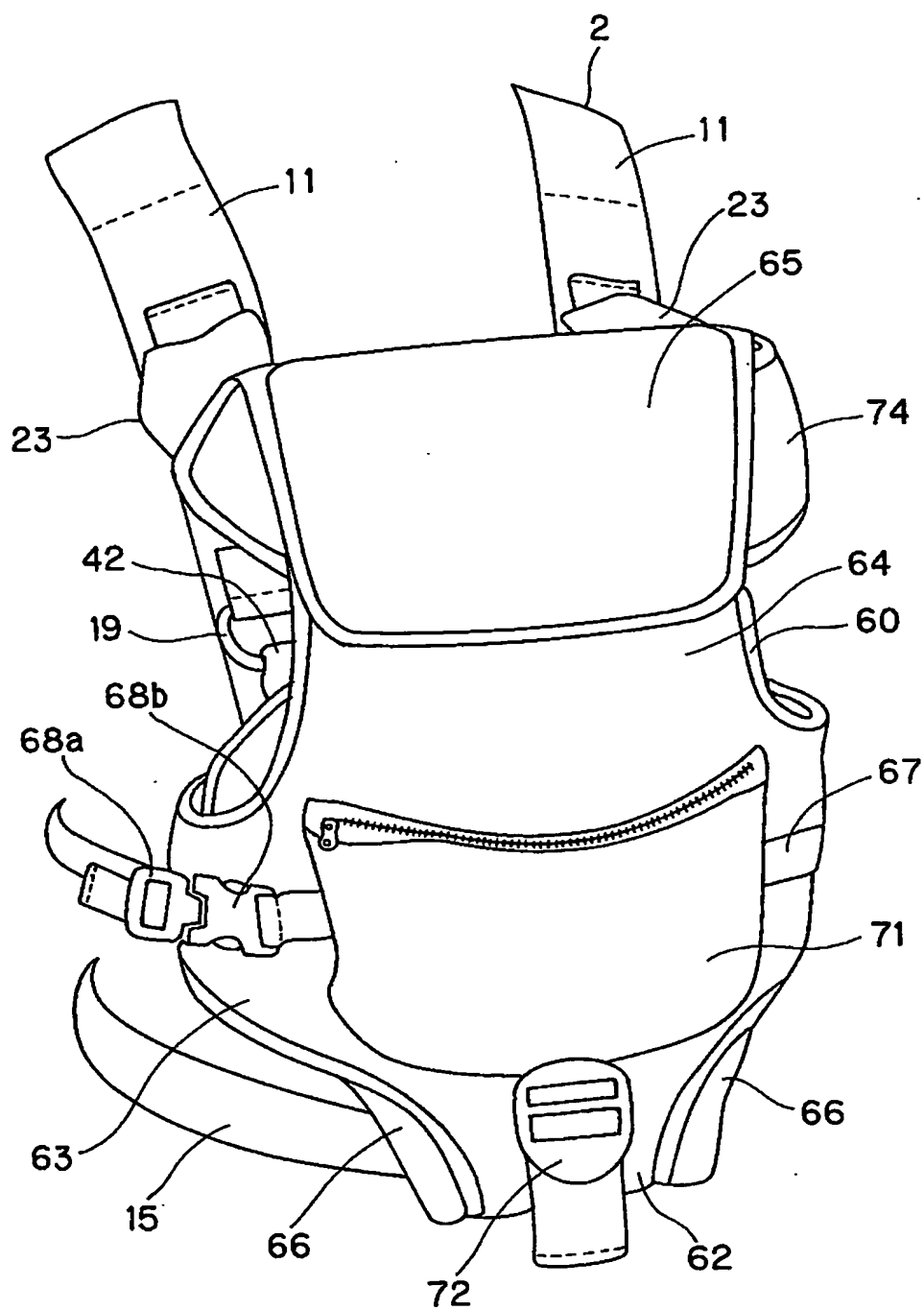
【図13】



【図 14】



【図 16】



【書類名】 要約書**【要約】**

【課題】 子守帯本体から横抱き用シートを吊り下げるときのその横抱き用シートの揺れを抑えることが可能な子守帯を提供する。

【解決手段】 使用者が装着する子守帯本体 2 と、幼児を横抱き姿勢で保持すべく子守帯本体 2 から吊り下げられる横抱き用シート 3 とを備えた子守帯 1 において、子守帯本体 2 には、横抱き用シート 3 を取り付けるための留め具として、横抱き用シートを吊り下げるための上部留め具 1 8 b、1 9 と、それらの上部留め具 1 8 b、1 9 よりも下方に位置する下部留め具 1 8 b とを設ける。横抱き用シート 3 には、その横抱き用シート 3 を上部留め具 1 8 b、1 9 から吊り下げるための吊り下げ具 3 2、3 5、3 6、3 7 と、横抱き用シート 3 の幅方向一方の側縁に設けられて下部留め具 2 0 b と連結可能な揺れ止め用留め具 2 0 a とを設ける。

【選択図】 図 1 3

特願 2004-135910

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[391003912]

1. 変更年月日

1996年 8月 7日

[変更理由]

住所変更

住 所

東京都台東区元浅草2丁目6番7号

氏 名

コンビ株式会社

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record.**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☒ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.